

# TABLE FOR TWO かわら版

第7号 2010年9月発行



学校給食がストップしていたハウゼン地区を訪問した際、「なんとかしてあげなければ」と強い思いを感じました。その後皆様のご理解とご協力があり、約1万6千人の子どもたちに、9月から温かいランチを届けることができることになりました。ハウゼン地区に再び子どもたちの輝くような笑顔が溢れることになります。

これまでに集まったご寄付(2010年8月25日現在)

## 512万2,655食

約2万3,300人の子どもの1年分の学校給食になります。

## 支援地域拡大のご報告 エチオピア

### 皆さまのテーブルに繋がる国は、4カ国に

2010年9月より、TFTは新たにエチオピアでの学校給食支援を開始します。支援先が増えるのは、2007年の活動開始以来初めて。皆さまの1食1食に支えられ、支援地域の拡大がついに実現しました。従来の支援先であるウガンダ・ルワンダ・マラウィと合わせて計4カ国へ、TFTはこれからも学校給食を届けてまいります。

### 終わらない干ばつ、犠牲となった学校給食

エチオピアは現在、深刻な干ばつ問題を抱えています。慢性的な水不足は、安全な生活用水の欠乏だけでなく、同国の経済基盤の約半分を担う農業の脆弱化と、それに伴う深刻な食糧難を招いています。そんなエチオピアで今回TFTが支援するのは、北部にあるティグリー

州ハウゼン地区にある村々です。この地域では、経済的な自立を目指す積極的な農業開発が進んでおり、地元の農産品で学校給食を賄うサイクルも確立しつつありました。TFTの他の支援先と同様、子どもたちは喜んで学校に通い、学業が向上する様子も伝えられていました。しかしその後、この地域では同国内でも最も深刻な干ばつに見舞われ、収穫はかつての2割以下まで減少してしまいました。今は一部の井戸でようやく灌漑された畑で命をつなぐ、綱渡りのような食料危機に地域全体が瀕しており、学校給食の中断を余儀なくされています。

このハウゼン地区の給食危機をTFTの支援によって安定復活させたいと考え、支援決定にさきだち現地を訪問しました。赤土の岩砂漠に覆われた点在する11の村には、約55,000人の住民が暮らしており、ラクダの隊商が今も物流



↑数年前まで川が存在した。  
↓手動で組み上げたわずかな地下水を農作物へ。



←空腹の中、授業を受ける子どもたち。



ハウゼン地区の小学校に通う生徒たち。

### 子どもたちと村での暮らし

TFTが新たに支援を開始する地域で、小学校に通う子どもたちは約16,000人。地域全体が食糧難のため、自宅の食事もままなりません。今、現地で食べられているのは雑穀粉でできたインジュラという堅焼きクレープのような食事のみ。ほぼ空腹のまま、炎天下数キロの道のりを通学する子どもたちも多く、栄養不足から教室で失神してしまう子どもも珍しくありません。

世界的な異常気象へのはっきりとした対策がなかなかない中、現地では灌漑・給水システム改善への地道な努力が続いています。同じこの天災によって、給食の存亡とともに、なし崩しに破綻へ追い込まれつつある子どもたちの教育機会。今後それは、TFTの支援決定を通じ日本の皆さんのヘルシーメニューの力によって継続維持されます。4カ国目の子どもたちへの新たなTABLE FOR TWOを、よろしくお願いたします。

「どのように生活していけばいいかわからないんだ。」

そう話すのは、ハウゼン地区の村に暮らす農業を営む男性です。彼は、奥さんと5人の子どもの養育一家の主です。今も農業で生計を立てていますが、昨今の干ばつの被害を受けたのは彼も例外ではありません。収穫高の激減により、子どもたちはいつでもお腹をすかせており、家族みな満足な食事ができないままです。



### 【エチオピア連邦民主共和国 基本情報】

- 首都: アディス・アババ
- 民族: オロモ族、アムハラ族など約80の民族
- 言語: アムハラ語、英語

およそ3,000年以上の歴史を持つ、アフリカで最も古い独立国。首都にはAU(African Union)はじめ、多くの国際機関や地域機関が立ち並ぶ。



## TFT brings future for children in Africa.

TFTはウガンダ・ルワンダ・マラウィ・エチオピアの子どもたちの給食を支援しています。